



## パラオのお祭りに参加！

2学期も残り2ヵ月を切り、いよいよ本格的に冬がやってきますね。3年生は進路選択の真ただ中でしょうか。体調に気を付けて過ごしてくださいね。

去る10月24日は1945年に国際連合が正式に発足した日にちなんで、United Nations day(国連の日)となっており、パラオでは祝日でした。その日にはベラウフェアというパラオ最大級のお祭りが開催されました。パラオには16の州があり、各州が持ち回りでお祭りを開催します。今年はガラスマオという北部の小さな村で行われました。

ベラウフェアでは、パラオ人はもちろん、パラオに住む外国人も多く集まり、自分たちの国の紹介をするなど盛り上がっていました。私もパラオに住む日本人の方々と一緒に「ラジオ体操」を披露しました。他にも、パラオの子どもたちがステージで伝統的なダンスを踊ったり、州ごとの出店で郷土料理を味わえるなど楽しい時間を過ごしました。



パラオの Bento (弁当) →



↓パラウワンダンス



## 【パラオ日記】

★ある高校生がカタカナで『キヨコ』と書かれたTシャツを着ていました。聞くと、おばあちゃんのお葬式に家族みんなで作ったんだとか。(おばあちゃんの名前がキヨコさんだったようです。)パラオの人は、お揃いのTシャツを作るのが大好き。先生の勤務しているところでも、毎週金曜日はお揃いのTシャツを着て出勤する人が多いです。(写真右)

★パラオで食べられる珍しいものと言えば、『フルーツバット(コウモリ)』です。パラオのレストランでも食べられますし、家庭料理として出てくることもあるそうです。フルーツバットは名前の通り、フルーツやナッツしか食べないので、臭みがありません。私もトライしてみましたが…案外おいしい！鶏肉を食べているような感じでした！



## Let's think together!

右の写真は、先日パラオのある地域をトレッキングしていた時に見つけ、撮った写真です。

実はこれ、日本が作り、戦時中に使用していたプロペラ機の一部なのです。なぜ、こんなものがパラオにあるのでしょうか。



# パラオの戦跡からたどる日本の歴史

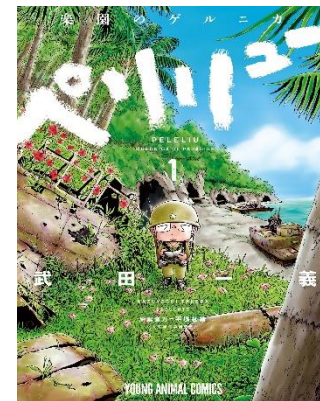
美しい海に囲まれている自然豊かなパラオですが、太平洋戦争時には日米による激戦が繰り広げられ、両軍合わせて18,000人が戦死したと言われています。そんな激戦の跡が今でも残っており、見て回ることができます。先月、1944年9月に激戦が繰り広げられたペリリュー島という小さな島に行かせていただく機会があったので、そこで見たもの、学んだことを共有します。

ペリリュー島はパラオ中心部コロール島から南に50km（船で1時間ほど）に位置する島です。太平洋戦争中の1944年9月15日から11月27日にかけて日本軍守備隊とアメリカ軍による激しい戦闘が行われ、日本軍10,695名、アメリカ軍1,794名が戦死したと言われています。

ペリリュー島内は日本人ガイドの方に案内していただきました。島内には、戦争当時、日本兵たちが潜伏していた洞窟がいくつもありました。アメリカ軍によって火炎放射器で洞窟を焼かれたため、入り口が黒くなっているところもありました。また、島のあちこちに日本軍、アメリカ軍の戦車や大砲、銃弾が当時のまま残っていました。美しいパラオの海の底にもたくさんの艦船や航空機が沈んでいるそうです。

恥ずかしながらここに来るまで、日米の戦争がパラオで繰り広げられていたとは全く知りませんでした。ペリリュー訪問後、パラオ本土の色んなところに戦争の跡があると聞き、訪れました。普段通っているところにも戦争の跡がありました。戦争は特別な場所で起こったのではなく、本当に身近な、一般の人たちの生活の中で行われていたのだと身をもって感じました。

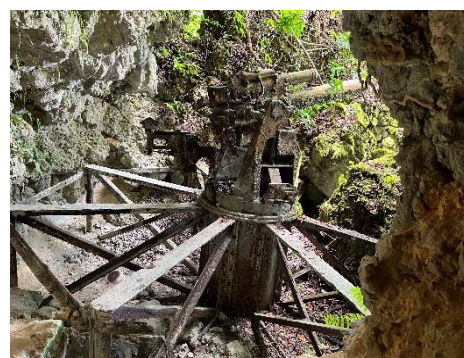
ペリリュー島での激闘については、『ペリリュー 楽園のゲルニカ』という全11巻のマンガが出ています。戦争マンガでありながら、柔らかいタッチのイラストで描かれており、中学生でも読みやすいのではないかと思います。（私も最近読み始めました。）もし興味があれば、ぜひ調べてみてください。



ペリリュー島に着くと、とても温かい看板が迎えてくれます。現在の人口は400人ほどで、日本人は2人住んでいるそうです。



ペリリュー島内にある戦時中に日本軍が使っていた戦車です。そのままの場所に、そのままの形で放置されています。



戦時中に日本軍がつくった砲台です。しかし、結果的には一度も使われることがなく終わったそうです。



ペリリュー島の西カロリン海軍航空隊司令部跡だそうです。天井には米軍の砲爆撃によって空いた穴がありました。